

1月19日、洞爺財田自然体験ハウスの1月の自然ふれあい行事「寒さを



木々の冬の様子を観察する児童たち

活かそう！生き物たちと私たちの暮らし」が、同体験ハウスで開かれ、生き物の冬越しの様子を学びました。

当日は室内で、冬も動き回る生き物と冬眠する生き物について学習し、エゾリス、シカなどの生き物がどちらに入るのかいっしょに考えました。引続きスノーシューを履いて屋外での調査を実施。木々などに注目して、どのように冬を過ごしているのかを観察しました。

最後には、牛乳、生クリーム、砂糖を入れた缶を蹴って作ったアイスクリームを試食して、寒い冬の1日を楽しみました。

生き物たちの観察で冬を楽しむ 自然体験ハウスの自然ふれあい行事

魅せる空中戦 セパタクロー選手権大会

「空中の格闘技」と呼ばれるセパタクローのオープン選手権大会が、1月19、20日の両日あぶた体育館で開かれ、ボールを巡って激しい攻防が繰り広げられました。

NPO法人にぎわいネットワークと観光協会が、町をアピールするイベントとして地域に根付かそうと、初めて町内に誘致したもので、男女14チームが参加し、それぞれリーグ戦を戦いました。

セパタクローは、1チーム3人が、頭や足を使ってボールを相手コートに蹴り入れ、得点を競うスポーツ。

昨年結成された地元チームも模擬試合に参加しました。



アクロパティックな動きを披露するセパタクローの大会

移住者が日々の暮らしを語る 洞爺湖暮らし座談会

1月23日移住者を対象にした「洞爺湖暮らし座談会」が、観光情報センターで開かれました。今後の移住・定住促進に役立てようと町が開いたもので、道内外から移り住んだ8人が参加し、暮らしの中での疑問や要望などが話し合われました。

参加者からは「空気がきれいで環境がよい」「住民の方は神社を大切にしている」など、自然景観や地域の歴史などに評価が高い意見が多かったです。

一方日々の暮らしの面では「車がないので、買い物に行くのが不便」「温泉街で大型車両が増えて、危険を感じる」など生活面での要望なども多く寄せられました。



洞爺湖町の暮らしについて話をする移住者の皆さん

文化財防火デーの1月26日、入江・高砂貝塚館で、防火訓練が行われました。

館内の



放水体験をする児童

ストーブから出火したとの想定で、警報のブザーとともに避難を開始し、貴重な土器や石器などの展示品を運びだしました。屋外では、西胆振消防組合伊達消防署洞爺湖支署の消防車1台が駆けつけ放水を行い、引き続き同駐車場で参加者が消火器での消火活動を体験。火災から文化財を守る大切さを学びました。

その後同館で、角田学芸員による「北海道・北東北の縄文遺跡群」のユネスコ登録に向けた取り組みを紹介しました。

文化財防火デー 入江・高砂貝塚館で防火訓練

まちのわだい